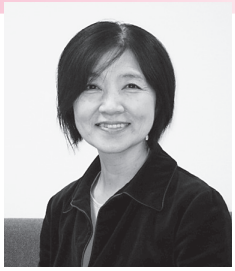
一般社団法人 神奈川県作業療法士会
KAOT
神奈川県作業療法士会ニュース
2012年7月
No.156

神奈川県作業療法士会ニュース156号　目次

1 巻頭言
2 こんな人に会ってきた
4 OTのためのIT講座（第14回）
6 地域リハ部のページ
8 県学会からのお知らせ
10 各部からのお知らせ
11 理事会報告
12 求人広告・講習会案内
14 青年海外協力隊通信（第９回）

巻頭言

第14回神奈川県作業療法学会テーマ「つなげよう過去から未来へ―作業療法の挑戦―」



国際医療福祉大学　学会長　菅原　洋子

第14回神奈川県作業療法学会のテーマを『つなげよう過去から未来へ　ー作業療法の挑戦ー』としました。このテーマの下で３つのことをお伝えしたいと思います。第一に東日本のリハを牽引してきた神奈川県作業療法士の方々の40年以上にわたる歴史を若い会員の方々に知っていただきたい。第二にその歴史の中で「リハビリテーション＝社会復帰」の目標に向かって挑戦し続けてきた足跡を糧にしていただきたい。第三に職域が拡散する中で、作業を武器にして患者さんや利用者さんの生活再建を支援するという基本を共有していきたいということです。

「日本のリハビリテーションは西高東低」という言葉を聞いたことがありますか。医療の分野でも福祉の分野でもリハビリテーションは西日本が東日本より進んでいるという意味です。そのような中で、神奈川県は1960年代から各分野でリハビリを実践する施設が開設し、東日本のリハビリテーションを東京都と共に牽引してきました。発達領域では「ゆうかり園」が1960年代に開園され、養護学校併設のこの施設にOTの資格制度ができてすぐに有資格者が入職し肢体不自由児療育にあたっていました。当時は県全域の障害児を対象に医師を中心にした医療チームを作って巡回し、始めて医療にかかるようなお子さんを含めて相談・指導をしてきたということです。現在ここは神奈川県立総合療育センターに併合されました。七沢リハビリテーション病院脳血管センターは昭和41年（1966年）全国に先駆けてリハビリテーションの総合病院として開設され、昭和48年（1973年）神奈川県総合リハビリテーションセンターに併設されました。その頃PT、OT、STは診療報酬の対象ではなく病院で維持期を支えていればいいという時代に、リハビリ工学を取り入れた研究室を併設しどんな重症の人も社会復帰の道を探そうとリハスタッフは悪戦苦闘したと聞いています。横浜市立大学付属病院にリハセンターが開設されたのは昭和43年（1968年）です。これは東大病院、慶応病院とほぼ同時期に始まっており、リハ医長であった大川嗣雄先生の指導の下に急性期におけるリハビリテーション医療の実践とエビデンスを公表していくことを課題にしていました。精神障害の領域では昭和46年（1971年）開設の川崎市社会復帰医療センターにおけるデイケアや「もみの木寮」での作業療法、そして家庭訪問、職場訪問を含めた実践が、その後の精神障害を持つ人々の退院支援、在宅支援の制度にむけてモデルとなりました。当時精神科医療はまだまだ施設中心の政策でしたが、病気を持ちながら地域で生活することの重要性を確信していた岡上和雄先生の指導が大きかったということです。同時期にその他にもいくつかの病院や施設で先駆的な作業療法を展開しています。

今回はそれぞれの領域の先輩（パイオニア世代と共に働いていた現役のリーダー）との交流も学会活動のひとつとし、多くの方々の参加によってこれまでの歴史を力にして未来へと繋げる学会にしたいと思っております。

笑福会（わらふくかい）

会長　尾渡順子さん

「笑わせてなんぼの介護福祉士会」、通称「笑福会」の会長でもある社会福祉法人　興寿会　教育実践研修センター　認知症介護レクリエーション実践研究センター　所長代表　尾渡順子さん（社会福祉士・介護福祉士　介護支援専門員　認知症ケア専門士）に職場でもある、特別養護老人ホーム　興寿会にてインタビューをしてきました。

Q.「笑福会」について教えてください。

笑福会は2010年に誕生したインターネットを通じて知り合った全国の介護職やその他、介護職を応援している人たちが集まり、介護の質の向上を目的に勉強会を行っている団体です。大きな活動としては、「全員が講師、全員が受講生」をテーマに過去２年間で４回の大会を開いています。現在会員数は260名程で、北は北海道、南は沖縄、さらにはアメリカまでいます。

Q. どの様な経緯で作られたのですか？また、どんな活動をされているのですか？

介護職は非常勤務形態者が多く、職場からなかなか研修会には出してもらえずに費用の自己負担額が大きくなってしまうことや、また主婦の方で勉強はしたいけど子供が小さくて、研修費が高くて、勤務日時があわなくて…といった理由で研修会や勉強会等に参加できない人が結構多いのです。そのような人たちの為に笑福会ではustreamというインターネットの動画配信サービスを使って、自宅でいつでも研修会に参加できるようにしました。この配信の特徴としては、配信者と閲覧者は質問や意見など、ネットを通してライブでやり取りできること。また研修記録はライブラリーとして残るので、いつでも再学習できることです。過去にはPTによる「動作介助研修」、在宅医による「在宅医療研修」、行政書士による「法律講座」などなど、介護福祉士以外にも色々な専門家講師による研修を配信しています。小さな活動としては、日々ネットという環境を通して職場で感じた疑問や質問などをその他の会員と相談やシェアする場、飲み会開催、即席研修会などの情報を随時アップしています。

また、もう一つの特徴といえば、「年会費はゼロ」、「その場その場での明朗会計」という点ですね。

以前、会に参加された方から「笑福会」についてこんなご意見を戴きました。『笑福会ではインターネット配信を使っているので、その場に行かなくとも意見交換ができようになっている。介護職だけでなく、理学療法士や大学教授、家族介護者など様々な職種が共に勉強しており、介護現場や仕事を客観的に見直すことができる。笑福会のあり方は、介護現場でも大切な“チームアプローチ”がおこなわれている。』

Q. その他、今の仕事について教えてください。

介護福祉士の世界では、高い離職率が問題になっています。業務内容的にも夜間勤務もあって体的にもきつい仕事です。この為、職場である社会福祉法人　興寿会では介護職を始め法人全体の質の向上を目指し、独自に「研修センター」を設け、私はそこで働きやすい職場づくりのお手伝いをさせて頂いています。仕事としては介護福祉士国家試験対策や各種研修などの企画調整を行っています。

平成24年度介護報酬改訂によって本年４月から介護職でも吸引が出来ることになり、当職場の方針で勤務形態、勤務場所問わず、全介護職種が研修会に参加できるよう、今は調整しています。研修を通して技術的な手技が可能になることで、職員の仕事へのモチベーションも高まっているように感じます。

私自身の経歴として、現在は特別養護老人施設で働いていますが、以前は老人介護保健施設で働いていました。そこでは介護職で唯一リハ部門に加わり、「レクリエーション」を担当していました。学生の実習生が来れば、介護場面について学生さんに指導することもあり、逆に現場での疑問を学生さんに尋ねることもありました。この職場でリハ職と働き、研修会へも一緒に参加し、他職種協働の中の介護福祉士としてともに学ばせて頂いたことが、とてもよい勉強となって今の仕事や笑福会の活動にもつながっていると思います。

インタビューを終えて…

介護福祉士といえばこの春初の外国人登録者が誕生したと話題にもなり、利用者さんの日々の生活を底から支えているともいえる、頼れる職種だと思います。皆さんの職場でも一緒に働いているという方が多いと思います。

尾渡さんとのお話の中で、コミュニケーションを取るには「なぜ、それが必要なのか」という所まで、しっかりと理由付けした情報提供が一番必要なのではないかということを感じました。介護職と一言でいっても、実際一緒に働いている方が、国家資格をもつ「介護福祉士」なのか、又は「ヘルパー」なのか分かりづらいですし、学校卒業後資格を取った人や、社会人経験者、主婦の方などバックグラウンドはリハ職よりも多種多様かと思います。そんな中で、例えば、「この人の歩行時は付き添いで」とリハサイドで指示した場合、中には、「この人は一人で歩けるのに、なんで制限がかかるの？」「なんで付き添わなくちゃだめなの？」「一人で歩けなくって、かわいそう」などと感情的になるかもしれません。しかし、この方の認知面や運動面のリハ評価を丁寧に伝えていれば誤解は生まれにくいと思います。

なぜ、必要なのか、どうしてダメなのか、実施することにどんな意味があるのか、といったところまできちんと丁寧に伝えなければ結局は情報共有とはならないのではないのでしょうか？

リハ効果を実際場面で上手く取り入れる為には、実生活での介助を行っている方々と上手にコミュニケーションが取れることが重要だと再確認しました。

（文責　菊地）

笑福会HP：http://warafuku.org/

★まめ知識★

「介護福祉士」とは

厚生省や介護福祉士会のホームページによれば、介護福祉士とは、昭和62年５月に成立された「社会福祉士及び介護福祉法」に基づく名称独占の国家資格であり、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者をいう。」とあります。

資格取得方法

①厚生労働大臣が指定した養成施設を卒業する方法（２年以上の養成施設・福祉系大学で指定科目を履修した後に１年間の養成施設・社会福祉士養成施設等を卒業（履修）した後に１年間の養成施設・保育士（保母）養成施設卒業後に１年間の養成施設を卒業するのいずれか）②国家試験を受験する方法として、介護等の業務に３年以上従事する。又は高等学校の福祉科福祉コースを卒業する方法がある。

2011年３月末時点で、資格登録者数は910,238名です。

働く場所

大きく分けて、介護老人福祉施設、有料老人ホーム、介護老人保健施設、通所生活介護施設、通所リハビリテーション施設、在宅介護支援センター、訪問介護サービス事業所といった高齢者施設。

身体障害者療護施設、重度身体障害者更正援護施設、視覚障害者更正施設、身体障害者福祉ホーム、知的障害者通勤寮といった障害者施設。

社会福祉協議会、精神障害者社会復帰施設といったその他の社会福祉施設があります。

ちなみに「ホームヘルパー」との違いは、ホームヘルパーは各都道府県がその資格を認めた公的認定資格ということ。ソーシャルワーカーと呼ばれる「社会福祉士」との違いは、社会福祉士は精神上の障害がある人、又は環境などにより日常生活を営むのに支障がある人の相談・助言・指導その他の援助を行う間接的な仕事だと言えるようです。

OTのためのIT講座

第14回　OTのための情報セキュリティ(2)

講師
石川 敢也さん

松本　前回は「まず情報資産を把握しておくこと」とかなんとか、謎の言葉を残したまま終ってしまいました。

石川　謎の言葉ですか。(笑)

松本　OTの仕事では「情報資産」って言葉はあまり聞きませんから、謎です。(笑)

石川　情報セキュリティ対策の**最初の一歩として、なにを守るのかという範囲をハッキリさせておく必要があるん**です。

松本　例えばどういうものですか？

石川　パソコンや通信機器などの物理的な設備、文書やデータベースなどのファイル、利用しているさまざまなソフトウェア、組織が提供している有形無形のサービス、さらには組織のイメージや評判、スタッフや利用者さんなどの人員も「情報資産」に挙げられますね。

松本　なるほど。でも、設備やファイル、ソフトウェアや組織の評判といったものが大事なのは分かりますが、サービスと人員のところがピンときません。

石川　ここでいうサービスというのは、一般的には、計算処理や通信、あるいはエアコンや照明の調節といった、利用者さんに提供されるもののことです。集計された会計の伝票が間違っていたら嫌ですよね。

松本　利用者さんに提供するサービスの正確さということですね。

石川　そういうことです。人員というのは、スタッフや利用者さんなど、組織に関わる人のことです。スタッフの資格や技能などのスキルも含まれる場合もあります。

松本　こうして改めて考えると、**身の回りには、たくさんの大事な情報資産がある**わけですね。

石川　そうですよね。そう考えると、その**情報資産を脅かすリスクもたくさんある**ってことですね。だから、最初に情報資産を洗い出す作業が必要になるわけです。

松本　そうはいっても、何をすればいいのか…。

石川　具体的には、情報資産の名称と用途、管理担当者と責任者、情報資産を利用する人の範囲、保存場所や形態、保存期間、そして格付けを記したリストを作るんです。

松本　格付けをするんですか？なんだか高級ワインみたいですね。

石川　そうです、**情報資産を格付けする**んです。前回、機密性・完全性・可用性のお話しをしました。

松本　情報セキュリティの３つの要素ってやつですね。

石川　はい。分かりやすいように高･中･低の３段階で評価するとして、秘密の文書は機密性「高」、秘密ではないけど一般公開を前提としていない社内情報などは機密性「中」、ホームページに載せてもいい情報は機密性「低」と評価できますね。

松本　なるほど～。“なんとなくやっている”ではなくて、ひとつひとつ評価していくんですね。

石川　そうですね。例えば、“将棋のボランティアさんが来て相手をしてくれる日”という情報の分類は、機密性「低」で、完全性と可用性は「中」といったところでしょうか？

松本　公開しても構わないし、もし間違っていても重要な業務に支障はなく、影響は軽微っていう評価ですね。

石川　まぁ、これはあくまでも例ですけどね。重大な影響を及ぼす将棋のボランティアさんもいるかもしれないし、サービス利用の主要因と考えている利用者さんもいるかもしれませんけどね。

松本　やっぱり**情報資産ひとつひとつの取扱いを決めておくことが大事**なわけですね。

石川　そういうことです。そうすると、セキュリティの重要性が判断できて、対策の水準も決まってくるわけです。

松本　セキュリティ対策の水準というと、極秘とかマル秘とかっていう、あれですか？

石川　あれかどうかはともかく（笑）、専門的には要保護情報なんていう言い方をしていますけど、無理に言い換える必要は無いと私は思います。極秘、秘密、社内情報（社外秘）、それ以外という分類で良いと思いますよ。

松本　そうですか。ここまでで、機密性、完全性は分かりましたけど、情報の可用性についての分類がはっきりしません。

石川　可用性というのは、必要なときに必要な情報にアクセスできる状態になっていることという話を前回しましたが、この評価とは、情報を利用できる人は確実にアクセスできて、利用する権限のない人にはアクセスさせないといった区分けのことです。

松本　なるほど。それが可用性の評価ってことですね。

石川　それだけじゃなくて、情報の種類によっては、アクセスできるかできないかだけじゃなくて、**閲覧、複製、変更、削除などの取扱いの権限も明確にしておく必要がある**ってことですね。

松本　あっ、そうですよね。見るだけ、書き換えてもいい、捨てちゃってもいいって、できることを決めておかないと困りますよね。

石川　そうですよね。情報を開示する範囲は、業務上、その情報を知る必要がある人に限るという原則があって“Need to Know”なんていう言い方をしています。

松本　アクセスの制限と権限の管理ってことですね。おぉ、これでもうセキュリティが分かった気になってきましたよ！

石川　その勢いで、次回は個人情報保護法の概要についてお話ししますね。次回はちょっと漢字が多いかもしれませんよ。（笑）

松本　そんなこと言わずに、次回も分かりやすく、よろしくお願いしまぁ～す！

地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

シリーズ「認知症の作業療法」ベテランOTへのインタビュー

川口淳一先生　プロフィール

養成校卒業後、長崎市内の病院に勤務し、中枢疾患や整形疾患の高齢者を対象にリハビリテーションから在宅訪問まで一貫した援助を行う。その後、北海道富良野市の介護老人保健施設へ赴任。施設ケア改善の取り組みに加え、重度認知症高齢者のワークショップ開催、高齢者とのコミュニケーションを通してその声に耳を傾けた細やかなエッセイ集『リハビリテーションの不思議―聴こえてくる高齢者のこころの<こえ>―（青海社）』の執筆など、意欲的に活動。３年前より茨城県に移り、現職。

認知症の作業療法

特定医療法人社団同樹会　結城病院
川口淳一　先生

―はじめに、川口先生にとっての、認知症の作業療法との関わりについてお聞かせください。

卒業後すぐに勤めた病院は、いわゆる老人病院で、入院患者の大多数が認知症の方でした。その当時は、認知症は「リハビリの阻害因子」だと捉えられていて、「認知症があるから、リハビリできなくても仕方がないね」という言葉が、当たり前に交わされるような状況にありました。今とは随分違います。でも「それでよい」とはとても思えないですよね。OTとしての認知症との関わりを話す前に、僕自身の幼い頃の話をしましょう。

●自分で「役割」を作る

僕が中学１年生の時に亡くなった祖父は、かなり進行した認知症の状態でした。いわゆる「動ける認知症」です。僕が小学校高学年だったある日、祖父は、何十年と手塩にかけて育ててきた庭の草木を、植木バサミで片っ端から切ってしまいました。家族は「何してるの！じいちゃん」と慌てて止めに入ったのだけれど、動ける人だから、そう簡単には止められない。辺りに切るものが何もなくなったら、今度は、飼っていたセキセイインコを捕まえて、そのしっぽまで切ってしまう。僕が「じいちゃん、何でそんなことする？」と聞くと、祖父は「暑かろう」と答えました。祖父は、生い茂った草木が暑そうに見えたから、涼しくしてあげようとしたのでしょう。何でも「切る」という、その行動の出方は、社会的には受け入れ難いものがあるけれども、祖父なりの理由があっての行動だったのです。

僕ら兄弟が、それよりももっと幼い頃、祖父の家に遊びに行くと、必ず正座して、小一時間ほど戦争の話を聞かされました。それが聞き終わったら、アイスキャンディを買ってもらうというのが、お決まりで、我慢して聞くのです。でも、大きくなるにつれて、アイスキャンディなんて自分で買えるし、遊びにいっても自分のしたいことをするようになって、祖父から戦争の話を聞こうとはしなくなりました。祖父はきっと、家の中で、これといった役割もなく過ごしているうちに、徐々に認知症が進行していったのだと思います。

だけれども、祖父はなんて「逞しい」のでしょう。生活の中に役割がなくなってしまったというのに、役割を自分で作ってしまうのだから。暮らしの中に人に役立つことがなかったから、何の疑問もなく、そのような行動をとっていたのでしょう。

病院にいる患者さんも、祖父と同じ思いをしているはずです。「この方はリハビリできないから寝ているしかない」という医療が行われているなんて、そんなのは絶対にダメだと、22歳のOTになった僕は思いました。

―家族としての経験が、OTとしての立ち位置に繋がったのですね。

祖父は、本当はもっといろんな話をしたかっただろうし、もっと人の役に立ちたかったのだろうと思います。祖父の思いに気付くことができたから、OTになってからも、患者さんの思いに気付こうとすることができたのだと思います。

病院内は、エレベーター、車いす、ベッド。その環境はどこをみても、その方の今までの生活とはかけ離れています。この環境の中で、この方々の暮らしを、いかによくできるだろうか。その病院は、一生その場で暮らすような方の多い病院だったのですが、ここが自分のホームグラウンド、と思えるようにする作業療法って、どういうものなのだろうか、と模索しました。

―それらの気付きや思いを、作業療法の実践にどのように活かしていったのでしょうか。

●「なぜ」に向き合う

色々なことを試してきたけれど、それが自分の中で体系づけられたのは、北海道の老健でのことでしょう。施設に入所している認知症の方々の、一見不可思議な行動、いわゆるBPSDの理由を個々に推理していきました。個人の行動には必ず理由があるはず。その理由を推理していこうと、スタッフ同士で多くの話し合いを持ちました。「なぜ」に向き合うのです。

ケアプラン立案のカンファレンスを毎月開くのですが、その時に看護・介護からOTに対して、「この人、こんな行動があるのですけど、どうしたらいいのですか」という質問をされていました。僕はそれに対して、自分なりに知恵を絞って「こうしてみたら」とアドバイスをしていたのだけれども、大体うまくいきませんでした。打率でいえば１割くらい。ひどいものです。そういった経験から、認知症の人たちと向き合うときには、「どうすればよい」からではなくて、「なぜそういった行動がみられるのか」ということにしっかり向き合わないと、絶対に解決に結びつかないということに気付きました。だからこそ、カンファレンスは「なぜ」を話すことに徹底しました。職種は関係なく、みんなで推理しました。

認知症の方であっても、相手によっては出方を変えるし、リハビリの時はいい顔するけど女性スタッフには辛辣だなんてこともある。そういった個々の事例に対して、スタッフの考えを家族に相談・確認しながら、徐々に関わりの糸口を見出しました。

ある入所者の男性は、人の部屋に入ってはタンスを荒らしていました。自分のものだったらまだしも、他人のタンスを荒らすものだから、これは問題です。当然、他の入所者やその家族からはクレームがきます。どうしてそんなことをするのだろう？その方の気を紛らわせようとして、あの手この手を尽くしてみても、一向に状況は変わりません。ある日、自宅の奥様にタンス荒らしの行動について相談すると、「それ、納屋の整理してるんだわ」と、ぴたっと言い当てました。その方は、長年農家をしていて、離農して認知症状がでた後も、必ず毎日納屋で道具の整理をしていたそうです。そして帰ってくると奥さんのいれる温かいお茶をすすって一息つく。その方には、日課としての「納屋整理＝仕事」があったのです。しかし、老健には納屋はありませんでした。仕事場のない状況で、自分で何とかして「仕事」「役割」を見出そうとしている。その行動がタンス荒らしだったのでしょう。でも、仕事をしても達成感・役割感としてのピリオドを打てない。なぜなら仕事をしても、いつものお茶が出てこないのだから。

行動の理由が徐々に見えてきて、よくよく振り返ってみると、その方が荒らしたタンスはすべて、納屋と同じ開き扉のタンスでした。引き扉には一切、手を付けていません。これは間違いない。スタッフで考えたのは、それならもっと納屋らしいところがあると、掃除道具棚の片付けを毎日行ってもらうことを考えました。そして一仕事終わると、いつもと同じようにお茶をだすのです。

掃除道具棚の片付けはその方の日課として定着し、以前のように人のタンスを荒らすことはなくなりました。

―チームで「なぜ」を考えることで、介護や看護スタッフの様子も変わってきましたか？

●行動には理由がある

その方の一見不可思議な行動の理由がわかると、ケアする側は、やさしくなれます。ある女性の方はティッシュペーパーをたたんで集め続けている方がいました。これは「収集癖」とも言われます。その方は「お姉ちゃんが鼻を垂らしているの」といつも話していました。「お姉ちゃん」とは、その方の娘さんのことなのか、妹さんのことなのか、誰なのかは、はっきりしませんでした。でも、その方は「お姉ちゃん」のために、ティッシュをたたんでいる。

スタッフの中には「また集めてる！」と、怒るような対応をする方もいました。しかし、鼻を垂らしているお姉ちゃんのために、いつでもティッシュを使えるようにしている、その方の思いに気付くことができるようになると、「これだけあれば、お姉ちゃんも安心よね」と声をかけるようになっていきました。

―生活歴を通して、その方の行動のあり方を理解していくことは大切ですね。

●「なぜ」と考える幅を広げる

その通りですね。でも、「なぜ」を考える時に忘れてはいけないことは、認知症の方だからといって何でも生活歴によるものと考えてしまうことは危険だということです。認知症の方は、あるがまま語れないがゆえに、病気や不調の発見、対処が遅れることは少なくありません。内科的な問題や、神経生理学的な視点をしっかりと身につけて関わることが基本です。「なぜ」と考える幅を広げるためには、生活歴をより深く踏まえた関わりができる、ことも大切ですが、医学的な視点をもつことも同様に大切です。

（次回に続く）

第14回 神奈川県作業療法学会 協賛金・プログラム集 広告募集のご案内

第14回　神奈川県作業療法学会・渉外部長の出口です。学会の開催まであっというまに1年を切りました！　皆さんの役に立つ、参加して良かったと思って頂ける学会になるよう、努力して参ります。準備している我々はちょっと焦りとプレッシャーも感じるわけですが…。さてさて、下記のとおり協賛金とプログラム広告について募集致します。みなさまどうぞご協力下さい！よろしくお願いします。

渉外部 部長　出口弦舞
（国際医療福祉大学）

本学会開催にあたり協賛協力依頼ならびに学会プログラム集広告掲載の募集をいたします。以下の各募集要項をご確認いただき、会員個人ならびに会員施設でのご検討をお願い致します。

【協賛金募集要項】

1．協賛金の名称：第14回 神奈川県作業療法学会協賛金
2．募 集 期 限：2012年12月21日㈮まで
3．協賛金を必要とする理由
本学会の学会参加予定者数は600名を予定しております。来場者は神奈川県内（県外も含む）の有資格者及び学生です。時節柄、開催経費の削減に鋭意努力しているところでございますが、参加費等で全ての経費をまかなうことが困難と予想されます。つきましては、本学会の開催趣旨をご理解いただきまして、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
4．協賛金の使途 :第14回神奈川県作業療法学会の準備、運営のための諸費用
5．金 額：一口 5,000 円（何口でも結構です）
6．特 典：
1）第14 回神奈川県作業療法学会プログラム集及び、学会ホームページに協賛者名を掲載させていただきます。プログラム集の協賛者名掲載につきましては、印刷の都合上2012年12月21日㈮までのお申し込み分までとさせていただきます。
2）ご希望により、学会ホームページに協賛者のホームページをリンクいたします。尚、ホームページへのリンク期間は協賛金入金確認後からサイト閉鎖までとさせていただきます。

【プログラム広告募集要項】

1．発行概要
●名称：第14回　神奈川県作業療法学会プログラム集
●発行部数：2,000部（予定）
●配布対象：神奈川県士会員1700名に事前に郵送及び当日会場で配布
●規格：白黒　A4判　60頁（予定）
●発行日：2013年　２月末（予定）
2．募集締め切り：2012年12月21日㈮
3．広告掲載料
●表４（裏表紙）　1本　￥25,000
●表２（表紙裏面）　1本　￥22,000
●表３（裏表紙裏面）１本　￥22,000
●１頁：　￥20,000
●１／２頁：￥10,000
●１／４頁：￥5,000
※同じ広告枠に複数の企業及び施設の希望がございましたら、申込順とさせて頂きます。掲載順番等については、ご一任願います。

※協賛金・プログラム集広告募集　申込などの詳細は、下記にお問い合わせください。
●第14回　神奈川県作業療法学会事務局
渉外担当
TEL：0465-21-6722
（国際医療福祉大学　小田原保健医療学部　作業療法学科　共同研究室内）
E-mail：kanaot-14thcong@kana-ot.jp
●第14回　神奈川県作業療法学会HP
http://kana-ot.jp/kotc/

第14回 神奈川県作業療法学会 演題募集のお知らせ

兼ねてより県士会ニュース、ホームページよりお知らせしておりますが、第14回神奈川県作業療法学会が国際医療福祉大学小田原保健医療学部で開催されます。今回はこの場をお借りして演題募集の概要をご案内させていただきます。募集についての詳細はホームページ上の演題募集要領でご確認いただけます。みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

演題採択委員会委員長　窪田　聡

【演題募集概要】

Ⅰ．応募資格

筆頭演者（発表者）が神奈川県作業療法士会正会員であることが要件となります。また、筆頭演者が2012年度の神奈川県作業療法士会会費未納者の場合、応募資格がありません。

Ⅱ．受付期間

2012年８月１日㈬　～　2012年11月30日㈮

Ⅲ．募集内容と発表形式

１．募集内容

一般演題

（口述発表、一部ポスター発表の可能性有）

２．発表形式

①口述発表で、発表時間は７分（質疑応答３分）です。

②ビジュアルエイドとしてパソコンとプロジェクタ、Microsoftパワーポイントをご用意いたします。発表用データは、「USBフラッシュメモリー」に入れてお持ち込みください。

Ⅲ．演題内容に関わる倫理的事項について

対象者・被験者への研究参加への同意やその旨の記載、所属機関での承認等には十分ご配慮ください。詳細はホームページの募集要領よりご確認ください。

Ⅳ．応募方法

①応募は電子メールに限ります。募集要領に従って抄録原稿を添付して応募メールをご送付ください。

演題応募用メールアドレス
2013otendai@gmail.com

※学会事務局のメールアドレスとは異なります。

②演題応募の受付完了通知並びに演題採否通知はご応募を頂いたメールアドレスに返信します。携帯電話のメールアドレス等、添付ファイルが開けないアドレスのご使用は控えて下さい。

③ 演題抄録原稿の作成にあたっては原稿作成要領（募集要領内に記載）を順守してください。

Ⅴ．原稿作成要領と抄録原稿フォーマットについて

演題抄録原稿の作成要領につきましてはホームページの演題募集要領の中に記載されているのでそちらをご確認ください。また併せてホームページ内にアップロードされている、「抄録原稿フォーマット」をダウンロードし、原稿作成にご活用ください。

Ⅵ．演題採択結果の通知

最終的な「演題採択結果の通知」は、応募から１ヶ月を目処に演題採択委員会より電子メール（応募時のアドレスに返信）で筆頭演者宛に通知いたします。

Ⅶ．基礎研修ポイント

本学会にて演題発表を行った場合は、㈳日本作業療法士協会　基礎研修ポイント２ポイントが付与されます。

Ⅷ．学会ホームページからの情報

演題の募集要領（原稿作成要領を含む）、抄録原稿のフォーマットは学会ホームページ（http://kana-ot.jp/kotc/top/endai）よりダンロード可能です。また、不明な点につきましては演題採択委員会にお問い合わせください。

（演題募集に関する問い合わせ先）

第14回神奈川県作業療法学会　演題採択委員会
国際医療福祉大学　小田原保健医療学部　作業療法学科内
〒250-8588　小田原市城山1-2-25
TEL：0465-21-6722　　FAX：0465-21-6744
E-mail:kanaot-14thcong@kana-ot.jp
※演題応募用のメールアドレスではありません。
URL: http://kana-ot.jp/kotc/top/endai

各部からの報告

地域リハビリテーション部

○≪今年度の研修会案内≫

①第２回神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダーミーティング　６月17日㈰開催
②第３回訪問リハビリテーション実務者研修会　８月18㈯～19日㈰開催
④第２回OT・PSW合同研修会　９月２日㈰開催
⑥コミュニケーション支援講習会　９月予定

予定・未定のものは決定次第、ウェブサイトに掲載いたします。
今年度も多くの会員の参加をお待ちしております。

○≪訪問リハ実施施設の掲載≫

既にご存じの方も多いと思いますが、県士会ウェブサイトに「地域リハの”わ・輪・和”」というコンテンツを掲載しています。
その中に、”訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。
今年度は更に作業療法士の所属施設のみではなく、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載いたします。
神奈川県民への有益な情報源ですので、すでに掲載済みの施設および未だ掲載していない施設の方々には是非ともご協力をお願い申しあげます。

（地域リハビリテーション部　木村）

教育部

県士会ウェブサイトから質問ができます！

○連載！「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

今号の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、今年度の教育部主催のOT協会生涯教育制度関連の研修会の予定をお知らせします。

1．現職者共通研修：全10テーマ、生涯教育制度の必須基礎研修で、テーマ毎に受講します
　第１回現職者共通研修
　　９月29日㈯・30日㈰
　　横浜リハビリテーション専門学校
　第２回現職者共通研修
　　10月28日㈰　ウイリング横浜
　＊今号チラシに詳細が同封されています。ご確認の上お申し込みください。
　　申し込みは、回ごと、個人ごとにてお申し込みください。
　第３回現職者共通研修
　　2013年２月24日㈰
　　「事例検討」・「事例報告」　ウイリング横浜
　＊詳細は次号以降にお知らせしますが、事例報告予定者は今から準備をお願いします。

2．現職者選択研修：領域別（身体・老年期・精神・発達の各障害領域）の生涯教育制度必須基礎研修で、２領域を選択受講します。受講修了には一領域：90分×４コマの受講が必要です。コマ単位での部分受講も可能です（受講修了したとは認められません）
　＊今年度は、身体障害領域、老年期障害領域を開催します。詳細は決まり次第お知らせします。
　・身体障害領域　2013年２月３日㈰
　・老年期障害領域　2013年２月10日㈰
　　各領域とも会場はウイリング横浜

3．事例報告登録制度研修会：事例報告登録は認定作業療法士申請に必須です。OT協会学術部にご協力いただき開催します。詳細は同封のチラシをご覧ください。

教育部 奥原孝幸（昭和大学）
045-985-6500（代），kyoiku@kana-ot.jp

ご不明の点はご連絡ください。県士会ウェブサイトからもご質問ができます。

ウェブサイト管理委員会

○オーソドックスはやはり便利！

新着情報をメールで発信します『Kanaからの手紙』
登録 ⇒ http://kana-ot.jp/update/from_kana

よこ太：訪問者が来るのをひたすらじっと待つのみぞ。
ハマ子：いきなり何？っていつものことか。
よこ太：雨にも負けず…風邪もひかず…
ハマ子：それ、違うから。で、何が言いたいの？
よこ太：えーとね、県士会サイトを表現してみたの。
ハマ子：そりゃ風邪はひかないけど…ん？はぁ？
よこ太：だからさ、県士会サイトって、訪問者がサイトを見つけて訪問してきて、はじめて閲覧されるってこと。
ハマ子：あーなるほど。つまり、県士会サイトが勝手にみんなのPCに現れるわけではないということね。
よこ太：そっ！受け身のメディアってこと。だからこそ、その存在をいろんな手段でアピールしなきゃならない。
ハマ子：今日、まともだね、どうかしちゃった!?
よこ太：県士会サイトにもいろいろ工夫があるんだよ。
ハマ子：あー『Kanaからの手紙』のことね。他には、TwitterにFacebookか。あっRSSも。
よこ太：その通―り！さすがハマ子ちゃん！
ハマ子：『Kanaからの手紙』は、メールを使った情報発信というオーソドックスかつ地味ですが、県士会サイトが更新されたらメールが手元に届くので、とても便利です！

（文責：ウェブサイト管理委員会　作田）

平成24年５月アクセスランキング
１位　作業療法Tips & PDF　23508件
２位　講習会・研修会　13674件
３位　必見！ OTのすご技・アイデア集　9102件
４位　求人情報掲載板　7811件
５位　再学習☆応援講座　3140件

平成24年５月県士会ブログランキング
１位　KAOT社会保障制度委員会　1404件
２位　ウェブ管的知恵袋　622件
３位　ALS支援ブログ@KAOT 270件

更新件数：41件　訪問者延べ数：18285人
Kanaからの手紙発行回数：23回　登録者：167名
Twitter（ID:kaotwebkan）：フォロアー188名

理事会報告

平成24年度　第１回　一般社団法人　神奈川県作業療法士会理事会　抄録

日時：平成24年５月24日㈭　19：00～20：00
場所：神奈川県作業療法士会事務所
出席理事：渡邉、錠内、淺井、奥原、木村、小峰、作田、鈴木、冨山、中西、原、福留、三浦、野々垣、澤口
委任理事：佐藤、机、出席監事：清宮、長谷川
その他:沼田（福祉用具委員会）、酒井（広報部対外広報班）、松本（広報部ニュース班）、名古屋･金山･中尾（事務局書記）

●事務局（澤口事務局長）

１）平成24年度第４回定期総会報告
日時：H24/ ４/15　17：30～
場所：神奈川県立保健福祉大学講堂
総会当日の議決権のある正会員数　1711名
出席正会員数54名委任状数　717名
この議決権の総数　771名　よって総会成立
第１号議案～第６号議案まですべて承認
※委任状提出や総会出席等、会員の協力によって総会を開会することができた。会員の尽力に感謝申し上げます。

２）渉外関連【後援依頼・事業協力依頼など】
・かながわ・住まい・まちづくり協会「神奈川県住まいのバリアフリーリフォーム支援事業」→事業協力継続
・NPO法人横浜市まちづくりセンターよりコラム欄（みん横連携関連団体）への原稿依頼会報「まちセンだより」第19号（2012年７月分）依頼内容：県士会の紹介→事務局にて対応
※みん横：みんなにやさしい横浜の住生活モデル事業（住環境整備事業）パンフレット50部受理有効活用して下さい
・青葉区歯科医師会第６回かながわお口の健康フォーラム（７/１）
後援名義使用依頼→理事MLにて承認
・第16回NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会全国大会in江の島」後援依頼⇒承認
日時：７/６～７場所：神奈川県立かながわ女性センター
・日本精神障害者リハビリテーション学会第20回神奈川大会後援名義使用依頼→理事MLにて承認
日程：2012/11/16～11/18
会場：横須賀市文化会館・県立保健福祉大学
・（一社）神奈川県老人保健施設協会設立20周年記念式典御臨席依頼⇒澤口事務局長出席　日時：５/21　15：30～
会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
・神奈川県病院協会第80回定期総会後懇親会・公益社団法人設立祝賀会御臨席依頼⇒渡邉会長出席　日時：６/20　17:30～
場所：ホテルキャメロットジャパン
・神奈川県介護支援専門員協会：平成24年度団体会員会費納入を行なった（年団体会費：１万円）
・神奈川県言語聴覚士会より士会設立への協力御礼状受理
・日本理学療法士協会「地域におけるリハビリテーション提供のあり方に関する調査研究事業」報告書受理
・神奈川県保健福祉局地域保健福祉部「医師国家試験等の受験資格認定の取り扱い等について」の一部改正についての連絡と新旧対照表受理
・神奈川県健康危機管理課「HIV相談と検査～神奈川県実施機関一覧～」10部受理
・公益財団法人かながわ健康財団内「すこやかかながわ一万人健康ウォーク実行委員会」事務局より「平成23年度すこやかかながわ一万人健康ウォーク臨時実行委員会の結果報告と会議録」受理→今後は実行委員会を再編。平成24年度は県と調整を図りながら事業案を検討、平成25年度から開催に向け準備を行う（県士会は広報部対外広報活動の一環として平成23年度までの健康ウォークにおいてブース出展を行なっている）。

３）会員の派遣依頼・委員委嘱依頼
・小田原市介護認定審査委員…浅野恵氏から舘下潤一氏へ任期途中であるが交代→会員本人からの申告事務局にて推薦し申請済み（任期は25年３月末）
・神奈川県リハビリテーション協議会連携指針検討部会委員任期延長（H24）…渡邉会長継続
・県社会福祉協議会研修会情報提供について研修情報内容確認書を提出（紹介文の作成あり）→事務局にて作成中（５/31締切）
・平成24年度小田原地区糖尿病週間行事実行委員会委員（小田原市健康づくり課）派遣依頼→前年度より引き続き野津創先生石井希先生継続にて申請昨年度報告書受理
・県病院協会学術委員会・事業委員委嘱
任期：H24/ ４/ １～H26/ ３/31…渡邉会長委嘱（実務は中西理事６/６第１回学術委員会あり出席予定）
・第５回住まいのバリアフリーリフォームコンクール審査員派遣（かながわ住まい・まちづくり協会）⇒渡邉会長

●財務部（野々垣理事）
・平成24年度分の会費振込用紙を４/25・26に郵送（1,588通）コンビニ決済の納入期限は７月末日まで（最終期限は９月末日に設定）。Webサイトに掲載済み。
・会費の徴収をコンビニ決済から、銀行口座引き落としにしてみてはどうか検討中。経費の比較、行程等について次回報告する。

●学術部（福留理事）
・部員承認⇒２名とも承認
学術誌刊行班大野勘太（麻生総合病院）
分野別講習班林慎也（新横浜リハビリテーション病院）

●福利部（冨山理事）
・新入会員オリエンテーション＆歓迎会について
H24/ ９/29㈯16:30～18:00　現職者共通研修終了後開催
場所：横浜リハビリテーション専門学校地下１階
※18：30～懇親会を開催予定（会場周辺）

●教育部（奥原理事）
・現職者共通研修（予定）
①９/29・30（６テーマ）②10/28（２テーマ）
③H25/ ２/24（事例報告・事例検討）
・現職者選択研修（身障・老年期）H25/ ２/ ２～３（予定）
・事例報告登録制度研修会（10/28の午前中）

●広報部（小峰理事）
・学生を対象とした対外広報新企画：高校教員（進路指導担当）生徒、保護者向けのガイダンスを開催予定
日時：H24/ ６/10㈰10時開始場所：かながわ労働プラザ
内容：学生の進路指導に役立つような情報の提供
・臨床作業療法士の仕事・養成校での勉強内容
・県内各養成校より依頼頂ければ、パンフレットやオープンキャンパス情報も配布できます。
・一般県民を対象とした継続企画：ラジオ出演年３回可能
＊昨年度のラジオ出演（ラジオ日本）が好評だったとのこと。「『すこやか介護』毎週木曜日10：00～10：09」の看板企画にもなりそうとのことでスポンサーのヤマシタコーポレーション様より頻度増加の要請。
日時：８/30㈭、11月下旬、翌年３月下旬の年３回予定

●地域リハビリテーション部（木村理事）
・６/３生活行為向上マネジメント講習会
・６/17第２回訪問リハビリテーション地域リーダーミーティング
・９/２第２回OT・PSW合同研修会
・部員承認⇒９名とも承認：大寺亜由美・佐々木秀一・前場洋・磯朋代（北里大学東病院）、成田香代子（北里大学医療衛生学部）、遠藤陵晃（クローバークリニック）、山浦菜穂（日野病院）、青木紀恵（武田病院）

●代議員制度対策委員会（錠内副会長）
・11月までに方向性の提案・審議を行いたい。
※紙面の都合で以下、並びに一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧下さい（文責：澤口）

研修会

第13回関節ファシリテーション（SJF）学会学術大会

主　催　関節ファシリテーション学会
日　時　平成24年９月16日㈰、17日（月・祝）
場　所　愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
内　容　テーマ「技術の研鑽」
・基調講演「技術の研鑽」
宇都宮　初夫（JM研究所所長・SJF学会理事長）
・大会長講演「4D関節内運動学」
片岡　寿雄（岩倉病院リハビリテーションセンター部長）
・特別講演
杉浦　康夫（愛知県身障者コロニー総長・前名古屋大学理事・副総長）
・シンポジウム：「指導的立場に至る技術の研鑽」
・一般演題発表
対　象　理学療法士、作業療法士及び学生
参加費　会員8,000円　非会員10,000円　学生2,000円
定　員　800名
申込み方法　大会ホームページ
URL：http://sjf-aichi.jp/13gakkai/

申込み締切　８月下旬
生涯教育ポイント　なし

問い合わせ
籾内　真二（岩倉病院）
E-mail:13gakkai@sjf-aichi.jp

求　人

作業療法士　募集

施設概要：精神科（療養・認知症）病棟256床
内科（療養）病棟216床　合計472床
老人保健施設「なごみの里」120床
（平成24年４月新施設オープン）
募集人員：若干名
給　　与：当社規定により優遇（経験年数考慮）
待　　遇：社会保険完備　交通費規定により支給
賞与６ヶ月＋業績賞与（平成23年度実績）
昇給年１回　退職金制度　永年勤続旅行
（海外）　車通勤可（駐車場完備）
勤務時間：９：00～17：00（残業なし）
休　　日：４週６休　祝日　夏季・年末年始
有給休暇（採用後即20日支給）
研　　修：各種研修制度　学会・研修会出張奨励
応募方法：電話連絡の上履歴書郵送又は持参下さい。入社日等相談に応じます。
交　　通：JR中央線藤野駅から無料シャトルバス
勤 務 先：ふじの温泉病院　老人保健施設　なごみの里

医療法人社団　清伸会
〒252-0186　神奈川県相模原市緑区牧野8147-２
☎042-689-2321　担当／人事部　山本
E-Meil: j-yamamoto@fujino-hp.or.jp
URL：http://www.fujino-hp.or.jp/

研修会

第28回日本義肢装具学会学術大会

主　催　日本義肢装具学会
日　時　2012年11月10日㈯・11日㈰
場　所　名古屋国際会議場
愛知県名古屋市熱田区熱田西町１番１号
内　容　テーマ：システムとしての義肢装具・支援機器
ホームページ：http://www.cs-oto.com/jspo28/
会長講演：才藤　栄一（藤田保健衛生大学）
特別講演：Krebs　HI（マサチューセッツ工科大学）他２題
教育講演：鴻巣　仁司（トヨタ自動車株式会社）他２題
シンポジウム：動く支援機器―電動義肢からロボットまで―
パネルディスカッション：ブレースクリニックの工夫
ストラクチャード　レクチャーズ：２題
一般演題：200題を予定。作業療法士が行う下肢装具の工夫、機能改善も期待できる各種機器（IVES、NESS）に関する演題についても予定。
企業展示：装具・支援機器の実物を展示。トヨタの歩行、移乗、バランストレーニングのロボットも展示予定。
対　象　作業療法士、理学療法士、義肢装具士、医師
参加費　当日参加登録：会員10,000円、非会員13,000円
（事前登録、１日券、学生等の設定も有り）
定　員　なし
申込み方法　HP上から事前登録が可能
http://www.cs-oto.com/jspo28/
生涯教育ポイント　参加・発表でそれぞれ２（１日のみ参加は１）、１単位

問い合わせ
運営事務局：株式会社オフィステイクワン
TEL:052-930-6145/FAX:052-930-6146
E-Mail:jspo28@cs-oto.com

求　人

作業療法士募集

募集人数：常勤若干名
資　　格：理学療法士・作業療法士共に有資格者
勤務時間：月～金　８：30～17：30
土　　８：30～13：00
休　　日：土曜日午後・日曜日・祝日・病院指定休
待　　遇：給与規定による
昇給　　年１回４月
賞与　　年２回７月・12月
交通費　実費支給
勤 務 地：横浜市港北区JR横浜線・東急東横線菊名駅より徒歩３分
概　　要：急性期病院病床数218床
（特定集中治療室10床含む）
応募方法：電話連絡の上、写真付履歴書を郵送又は持参

医療法人　五星会　菊名記念病院
〒222-0011　横浜市港北区菊名４-４-27
電話　045（402）7111　FAX　045（432）2742
E-mail：y-shibanuma@ymg.gr.jp
URL：http://www.kmh.or.jp
担当：総務課　柴沼　頼孝

講習会

中枢神経疾患の リハビリテーションと脳機能解剖学

主　催　療法士.com
日　時　2012年９月８日㈯10時～16時30分
場　所　横浜市社会福祉センター　ホール（4F）
内　容　●内容：脳卒中や頭部外傷は脳のシステム障害を起こすことによって、さまざまな病態を表します。より良いリハビリテーションを進めていく上で、表れた現象からの判断だけではなく、脳の状況をよく理解しながら患者の持つ可能性を存分に引き出さなければなりません。そのためにも脳の機能解剖学に基づくシステムを理解することは中枢神経障害のリハビリテーションに必須事項です。
●講師：吉尾　雅春　先生
対　象　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など
参加費　2012年８月８日まで10,000円（以降は12,000円）
定　員　120名
申込み方法　療法士.com
http://ryouhousi.com/modules/ c …… r -2st.html

申込み締切　2012年９月７日
生涯教育ポイント　なし

問い合わせ
療法士.com　担当者：山田
info（@）ryouhousi.com
042-350-8885

講習会

高次脳機能とリハビリテーション

主　催　療法士.com
日　時　2012年９月２日㈰10時～16時30分
場　所　横浜市社会福祉センター　ホール（4F）
内　容　●内容：高次脳機能障害を持つ例ばかりでなく、どのような人であっても動作・活動の学習を推進するためには高次脳機能の知識はとても有用な武器となります
本セミナーでは、記憶・認知・注意・運動学習などをキーワードにしてリハビリテーションにおける動作・活動学習に有用な基礎知識を解説します。
●講師：高倉　保幸　先生
対　象　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など
参加費　2012年８月２日まで10,000円（以降は12,000円）
定　員　120名
申込み方法　療法士.comにて受付　担当者：山田
http://ryouhousi.com/modules/c……r-2st.html

申込み締切　2012年９月１日
生涯教育ポイント　なし

問い合わせ
療法士.com　担当者：山田
info（@）ryouhousi.com
042-350-8885

講習会

脊髄小脳変性症のリハビリテーション

主　催：厚生労働省「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究班」
日　時：平成24年10月28日㈰10：30～15：30（受付10：00～）
場　所：草津市立サンサンホール　大ホール
（滋賀県草津市大路２-11-51　草津警察署横　JR琵琶湖線草津駅徒歩10分　京都駅-草津駅約20分、米原駅-草津駅約33分）
内　容：脊髄小脳変性症のリハビリテーション
（内容）
・脊髄小脳変性症の生活における問題点
滋賀県立成人病センター　医師　中馬　孝容
・脊髄小脳変性症に対する理学療法
埼玉県立大学　理学療法士　菊本　東陽
・脊髄小脳変性症のcognitive affective syndromeの特徴と生活支援介入
広島大学大学院医歯薬保健学研究院　作業療法士　宮口　英樹
対　象：セラピスト
参加費：無料
定　員：400名（先着順お早めにお申し込みください）
申込み方法：FAXもしくはE-mailにて。
件名に「SCDリハビリ参加希望」と記載し、
・所属・氏名・職種・所属先住所・FAXもしくはE-mailアドレスを明記の上お申し込みください。
なお先着順となっておりますので、お早めにお申し込みください。
FAX：077-582-5726
E-mail：ef4701@pref.shiga.lg.jp
申込み締切：平成24年10月20日㈯
生涯教育ポイント：なし

問い合わせ
滋賀県立リハビリテーションセンター
（担当　中井、小林）
TEL:077-582-8157
備考：会場の駐車場利用はご遠慮ください。ご来場は公共交通機関をご利用ください。

研修会

発達障害分野　講習会のお知らせ

『発達障害児に対する作業療法 ～小西先生をお招きしての症例検討会～』

講　師：小西紀一　先生（姫路獨協大学副学長　作業療法士）
今回は、発達障害のあるお子さん２名をおよびし、その作業療法を小西先生にスーパーバイズしていただく予定です。また、感覚統合理論にもとづいたセラピーの理論的裏付けと、子どもとのコミュニケーションについて講義していただく予定です。１日単位で参加可能で、１日目終了後に懇親会も企画しています。
日　程：2012年10月13・14日（土・日）９時～16時（予定）
定　員：40名（先着順・定員になりしだい締切）
会　場：横浜市総合リハビリテーションセンター
対　象：職種を問わず参加可能
参加費：両日10,000円、１日5,000円、懇親会4,000円
申し込み方法：
以下のアドレスへ、題名を「小西先生講習会参加希望」とし、下記内容を記入してお申し込み下さい。
①氏名・②職種・③所属名・④参加日・⑤懇親会への参加の有無

申し込み・お問い合わせ先：
メールアドレス　matsumoto.m@yokohama-rf.jp
横浜市総合リハビリテーションセンター　松本政悦

連載

青年海外協力隊体験記
～大草原の小さな私～

第９回　メガさん

青年海外協力隊　平成23年度２次隊　川島由貴子

●執筆者プロフィール
川島（旧姓 堤）由貴子
大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得し、都内の病院へ３年間勤務する。平成23年３月退職し、７月から約２カ月の訓練を経て、９月より協力隊員としてモンゴルに赴任。国立外傷センターにて活動中。

どんな時にも困難を乗り越え、その困難を逆に糧にして大輪の花を咲かせる人がいる。こういう人になりたいと思わせる人。それが、私の病院で働くメガさんだ。メガさんは男性の看護師さん。20年以上前に脊髄損傷になり、下肢は完全麻痺となり、時に装具をして松葉杖を使って歩くこともあるが、車いす中心の生活だ。現在は、医師になるために大学に通いながら病院で働いている。齢約50歳。移動はマイカー。車を自分で改造して運転している。でも、すごいのはそれだけじゃない。さらに驚くことに、メガさんは独自に脊髄損傷の方むけの訓練器具を自ら編み出し、会社を設立し、訓練方法と共に普及を進めている。そして、首都から何百キロと離れている家にだって出かけて行って、安価な器具を設置してリハビリ方法を伝授している。器具での訓練だけでなく、時には、「車を買え、そして車でタクシーをすればお金だって自分で稼げるし、行きたいところにだって行ける。」と若い男性の背中を押す。メガさんは自ら身につけたと思われるQOLの視点を持っているのだ。メガさんは脊髄損傷の人々の希望でもある。彼の背中を見て、同じような境遇の人が「努力すれば自分も」と思える。なにより説得力は抜群だ。昨年やっとPTの一期生が誕生したばっかりのモンゴルで、さらに病院には長くは入院できないという状況の中で、メガさんの存在がどんなにありがたく、輝いているか。

患者さん宅で錘の袋を縫うメガさん。手縫いもミシン縫も得意。

自分で編み出した器具を患者さん宅で組み立てるメガさん。

ただし、メガさんは上肢には問題がないため、上肢機能にはあまり詳しくない。また、ADLのリハビリの知識は少し乏しい。それを一緒に患者さんを見ながら伝えられたらいい。そのうちにまた、その人が自分の生き方を伝えていけるような、そんな助けになりたい。

今、メガさんはリハビリの動画データを作りたがっている。そして、私に一緒に作らないかと。とてもパワフルで、私にとって刺激になる、そして勉強になる存在。

今日もメガさんは行く。

青年海外協力隊
JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。その主な目的は、(1)開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、(2)友好親善・相互理解の深化、(3)ボランティア経験の社会還元です。（以上、JICAホームページより抜粋）

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース　＜156号＞2012年７月発行（年６回発行）
発行責任者　渡邉愼一
編集責任者　小峰一宏
編集担当　松本政悦・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・川島由貴子・本間嗣崇
印刷　発送　第一資料印刷株式会社
事務局　〒231-0011　横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号　TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金　10：00～16：00　メールアドレス：jimu@kana-ot.jp
一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト http://kana-ot.jp　作業療法　神奈川　検索